

キャラクター名  
作成中

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス オルクス	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプション		年齢	18	性別	男
覚醒	無知	衝動	解放	初期侵食率	33 %
出自	政治権力；父親	経験	喪失：旧友	邂逅	いいひと：清家正平

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	5	0	0			5	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉	3	
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
亜純血	P	N		
父親	P	N		
旧友	P	N		
イズ	P	N		
	P 連帯感	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
女王の降臨	1	5	セット		自身	自動	LV/シナリオ	
効果： メジャー、自動成功のソラリスのエフェクト1つ使用								
狂戦士	3	5	メジャー	視界	単体	自動	80↑	
効果： 次のメジャーのC値-1、ダイス+[LV*2]個								
タブレット	3	2	オート		自身	自動	LV/シーン	
効果： ソラリスのエフェクト直前。射程を視界に変更								
多重生成	1	3	オート		自身	自動		
効果： 《タブレット》で対象LV+1体								
コンセ：ソラ	2	2	メジャー				シンドローム	
効果： C値-LV(下限7)								
絶対の恐怖	5	3	メジャー	視界	-	交渉		
効果： 攻撃力+LV、装甲値無視								
神の御言葉	2	4	メジャー			交渉	3/シナ	
効果： 《絶対の恐怖》の攻撃力+[LV*5]								
妖精の手	3	4	オート	視界	単体	自動	LV/シナリオ	
効果：								
麗しの容貌	1							
効果：								
快樂の香気	1							
効果：								
竹馬の友	1							
効果：								
仕組まれた幸運	1							
効果：								
効果：								

PL:Ryo  
 データは仮、まるっと変わるかも  
 コンセプト：セットアップに女王の降臨+狂戦士+タブレット+多重生成で味方3人に狂戦士撒き

仮設定  
 とある地方の町で地元有力者の長男として生まれる。  
 早くに母親を亡くし、父親は幼少期から自身の後継者とすべく様々な場合同行させた。  
 彼は行く先々で人気を集め、彼がいれば話が収まるようになる。  
 幼い彼の知る由もなかったが、その求心力は無自覚に覚醒していたオーヴァードとしての能力によるものだ。  
 父親は彼を交渉の場に同席させるようになったが……やがて彼が成長するにつれ、父親は自らの息子に恐れを抱くようになった。  
 そして遠からず家を追い出されることになる。

大人たちとのやり取りを経験していた彼は、子供ながらも新しい場所でもそれなりに立ち回ることができた。  
 しかし、それは同年代の子供たちからすれば異様に映るし、幼少期から知る者の多かった場所と違い、大人たちからも不信任感を覚えられる。  
 家を追い出される際に資金は余裕をもって渡されていたためお金に困ることはなかったが、一か所に留まることができず、各地を転々とする。  
 そして幾つめかの町で言われた、友達になれたと思えた相手からの「あんた、うさんくさいんだよ」という言葉を受けてから、携帯用の消臭スプレーで自分の匂いを消すように努めるようになった。  
 もちろん、文字通りの臭いということではないが、彼にとってそれが能力の制御のトリガーとして機能するようになった。  
 そうして自分を殺してどこかの街に居場所を求めが、長くいれればいずれボロが出て、周囲の視線が厳しくなり……、逃げるように街から街へ渡り歩いた。  
 その先で、ついに素の自分で接することのできる相手、イズと出会うことになるのだった。